

2025年8月3日 平和の主日 「キリストの平和」

ミカ4: 1～ 5 エフェソ2:13～18 ヨハネ15: 9～12

主の平和があなたたちとともにありますように。

今日は「平和の主日」。典礼色は白です。白には、すべての色が含まれています。それは、すべての人、あらゆる国、あらゆる違いを包み込む、神の光の色です。この白の中に、私たちは平和の意味と使命を見出します。

預言者ミカはわたしたちにこう語ります。

「終わりの日に、主の神殿の山は、山々の頭として堅く立つ。もろもろの民は大河のようにそこに向かう。」

これは世界中の民が、争いをやめて、神の御言葉を求めて集まってくるビジョンです。

そこで彼らは何をするのでしょうか？

「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。もはや戦うことを学ばない。」

つまり、武器が農具に変えられる。戦争のための知識が、命を育む知恵に変えられる。それはまさに、「平和と命」の選択です。しかしこのビジョンは、ただ夢物語ではありません。「脅かすものは何もない」と主が約束されているように、真の平和には恐れのない社会、安心して暮らせる生活が必要です。

そしてそれは、すべての人が**「尊厳をもって生きられること」**と切り離せません。

今から丁度30年前の1995年7月30日、飯能からも程近い八王子のスーパーナンペイで起こった事件を覚えておられるでしょうか。女性が3人、拳銃によって命を奪われました。被害にあわれた方々は、47歳のパート従業員の稲垣さんと、17歳の桜美林高校2年の矢吹さん。そして16歳の館高校2年の前田さんです。

この1995年1月17日に阪神大震災が起こり、5000人以上の方が犠牲になりました。また1995年3月20日には、オーム真理教による地下鉄サリン事件がありました。「世紀末」という言葉が流行し、私たちは強い不安を感じていました。

2025年の今、30年前に感じた閉塞感を私は感じています。そんな中でまるでカルトのような政治家が、世界中で弱者排除を訴えて、人気を集めています。

現実には、私たちはしばしば分断され、遠く隔てられています。肌の色や国籍、宗教、文化、貧富、政治的な立場…数え切れない壁が私たちの間に立ちはだかっています。

しかしパウロは言います。

「キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、敵意という隔ての壁を取り壊されました。」

ここで言う「二つのもの」とは、ユダヤ人と異邦人という分断された人々のことです。しかし、現代に生きる私たちは、これをもっと広く捉えるべきでしょう。

分断されたすべての人の間に、キリストは来られました。そして「十字架によって敵意を滅ぼし」、

平和の福音を告げ知らせられたのです。

平和とは、単に戦争がない状態ではありません。それは「壁の取り壊し」です。

人の尊厳を奪うすべての壁、沈黙を強いる壁、差別と偏見の壁を、キリストはご自身の体をもって破られました。

では、私たちはどうすればその平和に生きることができるのでしょうか？

イエスさまは弟子たちにこう語られます。

「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。…互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」

この「愛」は、感情や好意以上のものです。傷ついた者に寄り添う愛、和解を求める愛、声を上げられない者のために立ち上がる愛です。

それは、ときに自分の安定や安全を手放す覚悟を伴います。

「平和」は、正義と愛が実を結んでこそ実現します。

「すべての人の権利が守られる」ためには、ただ争わないだけでは足りません。「すべての人が愛されている」ということが、制度にも、文化にも、日々に関係にも刻まれていく必要があるのです。

今、私たちは白の祭壇の前に立っています。この白には、すべての命の輝きが宿っています。私たちは、その白の光を受けて、世へと遣わされていきます。

敵意ではなく、和解を。

排除ではなく、受容を。

恐れではなく、希望を。

キリストは、わたしたちの平和です。

その平和を、今週、わたしたちの小さな日常の中で体現していきましょう。

そして祈りましょう。武器が鋤に変えられ、恐れのない社会が築かれるその日まで。

主の平和が、あなたがたとともにありますように。

アーメン。